

学校経営計画

I はじめに

令和元年度から始まった新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大は、政治・経済はもとより、芸術・文化、スポーツなど、ありとあらゆる面に大きな影響を与え、教育もその影響を受け大きく様変わりしてきた。

このような中で、令和3年1月26日、中央教育審議会初等中等教育分科会は、『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現（答申）』を示した。ここでは、学習指導要領の趣旨を実現し、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と子供たちの多様な個性を最大限生かす「協働的な学び」を一体的に実現するなどが求められている。

府中市では、平成30年に府中市教育大綱～「可能性」と「チャンス」を生かす教育のまち～が示された。府中教育 Unified City 構想では、幼児・義務・高校・生涯の各教育まで一貫された教育のまちを目指し、コミュニティ・スクールと社会に開かれた教育課程・小中一貫教育カリキュラムが柱となっている。令和3年度には、学習指導要領総則に示された「言語能力」「情報活用能力」を育成していくことができるような教育課程の編成を図るために、府中市立全学校でことば探究科のカリキュラムが実施された。

新型コロナウイルス感染症対応に象徴されるように、まさにこれからは何が起こるか分からない先行き不透明な時代が到来している。また、Society5.0の時代に向けても、我々の生活は大きく変化しようとしている。だからこそ、目の前にある変化・課題に対して、その場、その時の最適解を常に思考し、判断し、行動する力が求められる。

そのために、本校では、教科指導はもとより、学校生活のあらゆる場面、あらゆる活動を通して、子供達に自ら課題を持ち、その解決に向かって主体的に思考し、判断し、表現（行動）できる力を育成していく。

また、学校が、すべての児童にとって幸せな場所になるように、安全・安心で、豊かな学びの場のある学校づくりを進めていくとともに、全ての子供の可能性を引き出し、一人一人の「学び」を日々積み重ねていきたいと思う。

II 学校経営理念

「社会に貢献する人づくり」— 志高く 夢に挑戦 —

- (1) 主体的な学びと確かな学力を育む学校
- (2) 素直な心と感謝の心を育てる学校
- (3) 保護者・地域からの信頼に応える学校
- (4) 地域とともにあゆむ学校

III 学校教育目標

「かしこい子 やさしい子 つよい子」の育成

(知)「かしこい子」…いろいろな問題や課題に対して、粘り強く自分で考え答えを見つけようとする子

- ・基礎学力の定着（効果的なドリル学習・百マス、ICT活用、百人一首、各種カード等）
- ・主体的な学びに向けた授業づくり（課題発見・解決学習、プロジェクト学習）
- ・学習への構えづくりの徹底

- (立腰・黙想、整理整頓の励行、連絡確認及び学習準備の励行等)
- ・家庭学習の定着、充実及び学習支援（ICTの活用、府中市ラーニング・サポート事業、寺子屋あさひの継続）
- ・ことば探究科及びICT教育の推進（表現を豊かに、ICTをノート・辞典・表現ツール・コミュニケーションツールに）
- ・読書活動の充実（旭っ子全校6000冊読破（PTA）、本との積極的な出会いづくり、電子図書の活用等）

(徳)「やさしい子」…相手のことを大切に思い、それを言葉や態度で表せる子

- ・「旭小3つの宝」の定着（気持ちの良い挨拶と返事・時間を守る・無言掃除）
- ・自治的活動の活性化
- ・児童の悩みや困りごとを伝えやすくするための人間関係の確立と日常的・定期的な教育相談の実施・不登校児童ゼロに
- ・地域「人財」を生かした学習の実施（GT等）
- ・地域貢献活動の活性化

】 ※敬語に気を付け
感謝を表す

(体)「つよい子」…自分の身体に関心を持ち、健康な生活を続けられる子

- ・基本的生活習慣の確立（早寝、早起き、朝ご飯、アウトメディア）
- ・体育授業の改善と充実
- ・週1回の元気タイムの実施及び運動の日常化
- ・全員出席の日の増加（昨年度全員出席日14日以上を目標）

IV 学校経営重点目標

(1) 児童に身に付けるべき資質・能力を育成するため授業改善

①児童に身に付けるべき資質・能力を育成するために、学習過程において「問い」を大切に
にした、課題発見・解決学習の授業づくりを行う。

※新学習指導要領で育む資質・能力

…「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性など」

※旭小学校において付けたい資質能力

…「論理的思考力」「コミュニケーション能力」「他者と協働して、よりよく生きる力」

②「個別最適な学び」によって、全ての子供の可能性伸ばすために、学習の場、学習方法、学習機会を多様化させるとともに、つまずきや間違いを分析し、児童一人一人の実態を把握して、授業改善に組織的に取り組む。(コグトレの効果的な活用・学力フォローアップの継続)

③声に出して読む、自分の考えを書く、お互いの考えを出し合って話し合う等、アウトプットを大切にされた言語活動の充実を図る。(総合的な学習の時間等を活用し、異学年同士の発表の場や、地域、保護者への発表の場を積極的に設ける)

④自らの健康と体力に関心を持ち、運動に親しむ児童にする。そのために、体育の授業改善を図るとともに、運動を楽しむ場(元気タイム、学級遊び、児童会行事等)を有効に活用し、心も体もたくましい子供を育てる。

(2) 自律した児童・教職員の育成

①学校生活の中で、気づき・考え・行動し・振り返るサイクルを意識させ、よりよく生きようとする意欲や態度の育成に努める。そのために、特別の教科道徳と日常生活、

各教科等との関連を図り、適切な指導と評価を行う中で、日常生活での実践力を高める。

②学校は、次の3つの役割を担っていることを自覚して、その役割を果たすための教育活動を教職員全員が組織的に行う。

- 学校は学習機会と学力を保障する役割
- 学校は児童の発達・成長を保障する役割
- 学校は人と安全・安心につながるができる居場所・セーフティネットとして身体的・精神的な健康を保障する福祉的な役割

(3) 規範意識の向上と体験活動の充実

- ①素直な心や感謝の心もち、礼儀正しく進んで挨拶をする学校風土をつくる。そのために、教職員が率先して挨拶をし、正しい言葉遣いで人に接する。
- ②生活のきまりやルールを守り、自分や人を大切にす児童を育てる。教職員も日々、礼儀正しく相手意識をもった言動に努める。
- ③宿泊体験・自然体験・勤労体験・緑化活動等の体験活動を充実させ、人・もの・自然とのつながりを大切にして、自分とのかかわりを自覚させる。

(4) 小中一貫教育の推進

- ①「府中学びプラン」(府中市教育推進計画)の推進に向けて、府南学園各小中学校との連携を密にし、教科指導と生徒指導の両面から、義務教育9年間を見通した資質・能力の育成を図るための実践的研究を積極的に行う。令和元年度から始まった小学1年生段階からの外国語教育に関する取組をはじめ、昨年度から新たに導入された「ことば探究科」の教科学習に積極的に取り組む。また、不登校児童の増加に歯止めをかけ、減少させるための生徒指導面での連携にも力を入れる。

(5) 地域とともにある学校づくり

- ①学校と家庭(PTA)・地域とで、めざす子供像を共有し、様々な場面・機会を通して、共通の目標に向けて取り組む。
- ②学校支援ボランティアの人材発掘と活用についても、継続して進める。地域を知り、地域に学ぶ学習の実施、地域行事に参加すること等、地域と関わる学習・活動の充実に向けて、カリキュラム・マネジメントを行う。

○「すべては子供達のために」という使命感

○「やり切る」という覚悟

○一人の教師であると同時に、『旭小学校』という組織の一員であるという意識

○目の前の子供達にとってはやり直しの利かない、今という時間、その学年。(そこには経験年数の長短は関係ない)